



# NEWS

2012 No.255

## 6月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

### 市場ニーズにマッチしている中古(リユース)部品

## 低年式車の修理用では部品在庫が豊富です NGP各社の営業マンに使い勝手について ご相談、要望をお寄せ下さい

中古(リユース)部品の供給は修理需要に対して豊富にあるものの、販売機会が少なく資源スクラップに回ってしまっている。日本自動車リサイクル部品協議会などで取り組んだ「自動車リユース部品の供給量に関する調査」でわかりました。

当たり前なことなのですが、低年式車ほどリユース部品の在庫は豊富でした。



保険事故車に対してリユース部品の供給が潤沢なことが調査で判明

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合が加盟する日本自動車リサイクル部品協議会は大学ベンチャーの早稲田環境研究所などとともに、昨年度に環境省が公募した自動車リサイクル連携高度化等支援事業で取り組んだ実証事業に参画、この中で保険事故による車両修理に対してリユース部品の在庫はどの程度そろっているか、需給のマッチング調査が行われました。

修理業者の皆様の中には、リユース部品はなかなかそろわないと思っている方もおられるとは思いますが、実際、高年式車ではクルマが新しいこともあってリユース部品として入手困難なケースもあるものの、中低年式車になるとリユース部品の在庫は豊富にあることが

対象車両は販売期間ごとにモデルを分け、ワンボックス車では① 2006年以降の販売モデル、② 2000年から2005年までのモデル、③ 1990年から1999年までのモデルの区分。

コンパクトカーでは同様に① 2010年以降、② 2002年から2010年、③ 1992年から2002年、また軽自動車は① 2003年から2008年、② 1998年から2003年、③ 1993年～1998年とのモデルで区分し、それぞれの④フロントバンパー、⑤リアゲート、⑥ボンネットフード、⑦リアバンパー、⑧右テールランプ、⑨右フロントドアの各部位について、修理による交換件数と在庫量を照合しました。

わかりました。

調査では、ワンボックス車、コンパクトカー、軽自動車各1モデルを取り上げて、某大手損保の事故修理データとリユース部品の在庫登録データを照らし合わせて、需給のマッチングを見ました。在庫登録データは、NGP協同組合のNGPシステムに登録されたデータのほか2グループから提供されました。

現状の在庫データで修理需要に対して供給量が下回った部位は、ワンボックス車では新しいモデル①の④～⑥までのすべての部位、中間モデル②の④、⑤と多いのですが、コンパクトカーでは新しいモデル①の④～⑥、中間モデル②の④、また軽自動車では新しいモデル①の④～⑥に留まっており、使用期間の長い車両を修理する場合、リユース部品がそろっていることがわかりました。

ワンボックス車は使用期間が長いので、部品取り車がリサイクル部品業者に回るのにも時間がかかります。また、事故車から部品を取るために、コンパクトカー、軽自動車を含めてフロント、リアのバンパーのリユース部品在庫は不足がちになるようです。お客様も新しい車の修理には新品部品を使ってほしいという要望が強いはずですから、そのあたりはやむなし。ただ、調査結果が示すように中年式以降の部品在庫は意外とそろっているのだということを修理業者の皆様にはご理解いただきたいと思います。

NGP協同組合は研修を通じて各社のフロントマンのスキルアップに努めており、例えばフロントバンパーの背後にある部品まで修理で必要になるかどうかを皆様にお尋ねしたりしています。「あるはずがない」と決めつけないで、NGP協同組合各社のフロントマンにお問い合わせください。全国ネットワークで修理に必要な部品をお探しします。また、在庫のあり方などで要望があれば真摯に受け止めて、協同組合を上げてお応えできるようにいたします。

## 自動車保険の等級別料率制度が変更により 保険料負担公平や保険収支の改善が狙い

自動車保険の等級別料率制度が変わります。損保各社は秋までに一斉に見直しを行うようです。サービスメニューなども増えることにはなりますが、総じてユーザーの負担は増します。連携して車離れを加速させない対策を検討する時期を迎えているのかもしれない。

〈適用例①〉18等級で事故があった場合の適用等級・割増引率

無事故	18等級 54%割引	15等級	16等級	17等級	18等級 54%割引 (4年後)
事故有	18等級	15等級 33%割引 (1年後)	16等級 36%割引 (2年後)	17等級 37%割引 (3年後)	18等級

〈適用例②〉18等級で車両盗難、飛び石、落書き等の事故があった場合の適用等級・割増引率

無事故	18等級 54%割引	17等級	18等級 54%割引 (2年後)	19等級 55%割引 (3年後)	20等級 63%割引 (4年後)
事故有	18等級	17等級 38%割引 (1年後)	18等級	19等級	20等級

三井住友海上火災保険が5月18日、ノンフリート等級別料率制度の改定を軸にした自動車保険の制度変更を発表しました。事故を起こしたドライバーの保険料負担を重くすることで事故を起こさなかったドライバーの負担を相対的に軽くし、負担感を公平にしようとするものです。昨年10月、自動車保険の参考料率などを算定している損害保険料率算出機構が金融庁にこの制度変更について届け出し、了承されています。他の損保も一斉に同内容の改定を実施します。

制度変更により事故を起こしたドライバーの負担は重くなります。ノンフリート等級別料率制度は1人の保険契約者が所有、または使用する自動車が9台以下の場合に適用される制度で、契約者を1～20等級に区分して等級ごとに保険料の割増、割引を行っています。初めて契約される場合、6等級または7等級が適用され、1年間無事故の場合には翌年度の契約で1等級上がり、割引が拡大し、反対に事故を起こした場合には3等級下がり、割引が小さくなるというものでした。

この制度の基本骨格は変わりませんが、新制度では7等級から20等級まで「事故

あり」、「事故なし」で異なる割引率が設定されます。例えば、18等級で事故を起こした場合、これまでの制度では翌年の契約時に15等級の割引率が適用され、3年間続けて無事故で過ごせば18等級に戻りましたが、新制度では同じ15等級でも「事故あり」の割引率の低い料率が適用され、翌々年、さらにその翌年と無事故で等級が上がっても割引率の低い「事故あり」の料率が適用されることとなります。また「等級すえ置き事故」の制度も廃止となりました。

料率算定機構は、これまでの制度では事故を起こした契約者が本来負担すべき保険料の一部を無事故の契約者が負担している構造になっており、この不公平を改めるため、などと料率をふたつに分けた理由を説明しています。

三井住友海上が発表した改正後の等級別割引率をみると、6等級の場合17%引きだったものが19%引きに割引率は上がりましたが、反面、最大の割引率63%（無事故の20等級に適用）はすえ置かれ、その一方で15等級の割引率が52%から51%に、また19等級では61%から55%になるなど、15等級から19等級までの割引率

の拡大カーブが低く抑えられています。全体的に見ると、保険料率水準は若干の引き上げになるようです。参考までに事故ありの場合、15等級の割引率は33%、20等級では44%と大幅ダウンになります。

また火災、盗難にあって車両保険が支払われた場合、「等級すえ置き」事故として翌年の契約時の等級はそのままでしたが、制度を廃止し1等級ダウンすることにしました。これらの新制度について、三井住友海上は10月1日以降の保険契約から適用することにしており、実際に「事故あり」「事故なし」で設定された料率が適用されるのは、翌年、2013年からの契約になります。同時に制度変更に合わせて安全ドライブサポートツールを充実して、スマートフォンユーザー向けのコンテンツサービスを充実するそうです。

自動車保険の収支改善は損保各社にとって大きな課題になっています。しかし料率を一方的に引き上げては車を維持するための負担感が増し、若者を中心としたユーザーの車離れを加速することになりかねません。ユーザーが減ればサービス需要も減ります。保険料の引き上げは、損保業界だけの話だと見物しているわけにはいきません。

損保業界にとっても保険料引き上げは痛しかゆして、制度改正など進める一方で、リユース部品を積極的に活用して保険事故の支払い保険料を引き下げること真剣に考え始めているようです。昨年は損保協会自らがリユース部品の利用促進を訴えるチラシを作製して配布しました。

ユーザーの車離れが進むことがないようにNGP協同組合も、高品質なリユース部品の供給力を高めてまいります。互いに連携、協力してユーザーにリユース部品に対する理解を深めてもらい、自動車サービス市場が活性化することをめざしたいと思っています。

### NGP 今月のCO2削減量

#### リサイクル部品利用にともなう削減効果



NGP 平成24年4月: **7,075 t**

NGP 1月からの累計: **28,173 t** (全12団体 1月からの累計 **49,984 t**)

※NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO2の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。

#### リターナブル梱包材利用にともなう削減効果



NGP 平成24年4月: **21.2 t**

NGP 1月からの累計: **86.2 t**

※リターナブル梱包材の利用にともなう削減効果はNGP協同組合独自のCO2排出削減の取り組みです。ダンボールに変えて、専用梱包材を200回繰り返し使用することで削減効果を試算しました。

※リターナブル梱包材は、ドア・フェンダー用に加えて2011年2月よりバンパー用の運用を開始しました。

「人とくるまのテクノロジー展 2012」開催

# 内外からの過去最大の出展者が最新技術の展示を競う

自動車関連の最新技術を紹介する「自動車技術展 人とくるまのテクノロジー展 2012」が5月23～25日、横浜市西区のパシフィコ横浜で開かれました。公益社団法人自動車技術会の春季大会に合わせて開かれているもので、今回で21回の開催を数えます。国内外から過去最大の436社・団体が出展し、自動車の設計開発、構造・部品にかかわる最新技術の展示を行いました。



自動車メーカーは昨年のモーターショーの流れで展示、「三菱プラグインハイブリッドEVシステム」もそのひとつ。フロント、リアそれぞれにモーターを搭載した4WDで、「EV」「シリアル」「パラレル」の3モードで走行、EVモードで50km走行する。今年度中に市販化を予定する。

ました。

今回は「人々の暮らしを豊かにするスマート技術～人とくるまと社会をつなぐ」をテーマに掲げたということで、ハイブリッド車、EV関連の展示が多くみられました。自動車メーカー各社も出展し、いすゞ自動車の小型トラックベースのプラグインハイブリッド、三菱自動車の4WDプラグインハイブリッドシステムなど、昨年のモーター



SIM-Driveは先行開発車事業のプレゼンとともに先行開発車第1号の「SIM-LEI」(=写真)、同2号の「SIM-WIL」を展示。いずれもインホイールモーターによるアウトローター式ダイレクトドライブで駆動、第1号は24.9kWhのリチウムイオン電池を搭載し、一充電268kmを走行する。

ショーで展示されたものが再展示されており、半年間の技術的進歩が聞けることもテクノロジー展の面白みのひとつでした。

展示会に並行して「EV・HEVワークショップ」を実施、EVの先行開発車を進めるシムドライブ(SIM-Drive)による先行開発車第2号「SIM-WIL」の解説や最新のドライブトレイン技術、カーエレクトロニクスの耐環境性評価試験など、各種の技術解説や課題解決のためのツール紹介が行われました。

ここからの自動車は、燃費向上のために軽量化が求められています。スチールから樹脂へと素材も変化、ワイヤーハーネスもアルミ化するなど部品素材の変化も各社の展示を通して理解することができました。



JATCOは新製品の「JATCO CVT 8ハイブリッド」を紹介。同社は4型式あったCVTを軽自動車から1.5ℓガソリン車までの「JATCO CVT7」と、2.0ℓから3.5ℓまでの「JATCO CVT8」に集約。発展形がこの新製品。アメリカで発売した日産「アルティマハイブリッド」に搭載されている。



矢崎総業のブースは電子部品、電装品をネットワークする車載電線を展示。こちらも軽量化が求められており、約30%の軽量化につながるアルミ電線、太さで通常銅線のおよそ3分の1、0.13mmという高強度極細電線を並べた。部品の進化、素材の変化を感じることができるのもテクノロジー展の魅力。



テクノロジー展に信越電装が自動車リサイクル業界で初出展した。自動車設計開発にリサイクルのしやすさを取り込んでいくことは今日的な課題のひとつ。主催者側からも新分野の展示会参加に期待、信越側もメーカー各社の技術者が来場する展示会で新たな出会いがあることに期待していた。



「ハイブスト」はダウンサイジングしたガソリンエンジンとマイクロハイブリッドで燃費向上をめざす英リカド社開発のシステム。マイクロハイブリッドとは日本のアイドリングストップを電動スパーチャージャーなどで上級化した機構。低コストな技術の組み合わせで低燃費を実現した。

## 自工会、「豊田」新体制に移行

# さらに売れる環境づくりで国内市場の活性化に期待

日本自動車工業会(自工会)は5月17日、平成24年度定時総会を開き、新会長にトヨタ自動車の豊田章男社長を選出しました。自動車産業のリーダーにトヨタ自動車のトップが立ったことで、国内からは低迷する市場の活性化に高い期待が寄せられています。こうした期待を感じてか、総会後の記者

会見で豊田新会長は「車体課税の抜本改革を実現するなどして、日本にある保有台数をベースに、買い替えサイクルが普通に回っていくような自動車流通、自動車産業を一日も早く達成したい」などと抱負を述べました。

会長だった日産自動車の志賀俊之最高執行責任者(COO)は、副会長に就任して豊

田体制を支えることになりました。前任会長が副会長に就任するという人事は、これまで自工会では例がなかったことだそうです。

自工会は新年度事業計画として環境変化を的確に捉えた取り組みを推進し、豊かなクルマ社会の実現に向けて積極的に活動することなどを打ち出し、「日本のものづくりの維持」「国内市場の活性化」「安全・安心で、快適なクルマ社会の実現」の3点を重点項目に掲げました。

また豊田新会長は、一定の国内生産量を確保することは必要との認識を示し、「国内の自動車産業を守り抜くこと」「世界の自動車産業をリードすること」に努めたいと語りました。

## 東日本大震災車両処理活動を締めくくる式典を挙行 太田部品の太田会長にELV機構から感謝状

日本ELVリサイクル機構（ELV機構）が主催した「東日本大震災被災車両処理活動終了式典」が5月18日、宮城県仙台市内のホテルで開かれました。自動車リサイクル業界は、ELV機構を中心にひとつになり、宮城県仙台、岩沼両市を中心にした被災車両の撤去・回収と処理に協力してきました。両市での処理が完了したことで、ひとつの区切りとしての式典を開催したものです。

式典には仙台市と岩沼市の両副市長、経済産業省、環境省、自動車リサイクル促進センター、自動車再資源化協力機構の関係者を来賓として招きました。処理業務にあたった自動車リサイクル業界各団体の代表とともに、NGP協同組合からは長谷川利彦理事長、大橋岳彦会長らが出席しました。

今回の活動は仙台市、岩沼市、さらに仙台空港を管轄する国土交通省東京交通局と協定を締結し、全国181社の解体事業者

から延べ3300人以上の経営者・従業員が参加し、延べ1200台以上の車両を使用して被災車両の撤去・回収にボランティアで取り組みました。回収し適正処理した被災車両は、仙台、岩沼両市で8400台以上となります。

NGP協同組合は、あいおいニッセイ同和損保の協力を得て現地本部を立ち上げ、保管車両の管理などにも本部から人員を派遣、全体の活動を支援しました。危険を伴う撤去・回収業務では、NGP協同組合の太田部品（静岡県御殿場市）の太田勲会長らのベテランが実務

指導を行いました。このため大きな事故が起きることもなく業務が遂行でき、式典では太田会長にELV機構より、感謝状が贈られました。

また、改めて寄付金を捻出し、仙台、岩沼両市の福祉施設や学校に寄付することとし、式典でNGP協同組合の長谷川利彦理事長らが両市の代表者に手渡しました。



行政関係者も出席、  
締めくくりに式典を挙行



挨拶する長谷川理事長

## 第6回フロントマンSTEP UP研修会を実施 戦力となるフロントマンを目指して 接客対応の技量に磨きをかける



ロールプレイングは緊張の瞬間



基礎知識を仕込むことで対応も変わる

第6回フロントマンSTEP UP研修会が5月17、18日に静岡県裾野市のあいおいニッセイ同和自動車研究所東富士センターで開かれました。参加者は利益構造など企業経営の基本知識、車体構造と復元修

造の講義は初歩のフロントマンにとって参考となるようで、「今まで詳しく学んだことがなかったので大変参考になりとても勉強になりました。自分の中で興味がわいたので引き続き自分で勉強してフロントマンと

理法などの板金技法基礎についての講義を受けるとともに、電話対応のロールプレイングでフロントマンとしての技量に磨きをかけました。

板金、車体構造の講義は初歩のフロントマンにとって参考となるようで、「今まで詳しく学んだことがなかったので大変参考になりとても勉強になりました。自分の中で興味がわいたので引き続き自分で勉強してフロントマンと

しての力量を高めたい」（茨城オートパーツセンター、舩孝明さん）、「修理技法を学んだおかげで、お客様が求めている商品はただへコミの少ない商品だけではないという発見にもつながりました」（東和、谷田葉瑠香さん）と意欲と発見につながっています。

ロールプレイングは「皆に見られている緊張と普段と違うシチュエーションからいつもの自分を100%出せませんでした、それでも言わなければならないこと、やらなくてはならないことといったポイントは押さえることができました」（コマゼン、大園明哉さん）とし、実践的な教育効果は高いです。

「合計粗利目標25%をめざし会社に貢献します」（栃木パーツ、古川直彦さん）、「どんなお客様にでも確実に対応できるようなフロントマンをめざすとともにお客様の信頼確保にも努めて行きます」（西日本オートリサイクル、大田健介さん）、「NGPに属しているという認識もより強いものになりました。さらに成長していけるよう頑張ります」（ラ・テール、大井昌美さん）と参加者はそれぞれ決意を新たにしています。



NGPニュース5月号の組合員情報変更の記事で、株式会社八セ川自動車の新しいFAX番号に誤りがありました。正しいFAX番号は076-477-7112です。お詫び、訂正いたします。

### NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F  
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209  
http://www.ngp.gr.jp

### 株式会社 NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F  
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201  
http://www.ngp.co.jp